

令和5年度版

生活支援体制整備事業

取組事例集



鹿児島県 高齢者生き生き推進課

はじめに

本県において、市町村での生活支援サービス提供の体制づくりを推進するため、“生活支援体制整備事業”の取組事例集を作成しました。

取組の経緯や行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割も可視化していますので、今後の取組にぜひご活用ください！



目次

1	はじめに	1
2	目次	2
3	取組事例	
01	あさがお, ひまわり, かすみ草 (鹿児島市)	3
02	帯迫老人クラブ (鹿児島市)	4
03	地域の助け愛隊 (わがえへのたすけあいたい) (鹿児島市)	5
04	まごころふぁーむ (鹿児島市)	6
05	みんなサポかもいけ (鹿児島市)	7
06	恵の会 (鹿児島市)	8
07	桜五 ささえたい (鹿児島市)	9
08	「ささえ愛マップ」づくり (枕崎市)	10
09	「大川内地区ドライブサロン買い物バス」で買い物支援 (出水市)	11
10	「米ノ津東地区コミュニティ協議会スマイル村塾教室」で介護予防 (出水市)	12
11	男性限定サロン「男ん衆で楽しも会」 (出水市)	13
12	「仮屋おたすけ会」による生活支援 (指宿市)	14
13	「生活お役立ち情報 食の宅配サービス」作成と買い物支援による活用 (指宿市)	15
14	西俣地域高齢者支援協議会 (西之表市)	16
15	喜入自治会 見守り隊 (薩摩川内市)	17
16	誰もが活躍できる地域 (薩摩川内市亀山地区 小倉自治会) (薩摩川内市)	18
17	地域の未来のため, 私たちがはじめたこと (上甕 中野自治会) (薩摩川内市)	19
18	本俣自治会のささえ愛 (住民主体の助け合い) (薩摩川内市)	20
19	陽成地区 (上大迫自治会) (薩摩川内市)	21
20	地域のヒーロー (祁答院町藺牟田地区 湯之元自治会) (薩摩川内市)	22
21	「困りごと支え隊」「かせとも」による生活支援 (いちき串木野市)	23
22	西町ささえあい隊 (さつま町)	24
23	「中種子町社会福祉協議会」による買い物支援 (中種子町)	25
24	幾里はまゆう (龍郷町)	26



- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

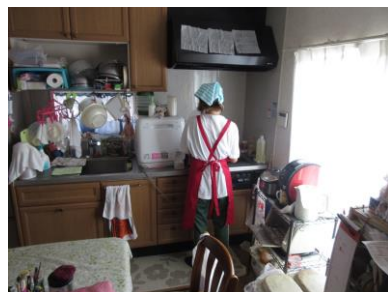
01 あさがお、ひまわり、かすみ草

鹿児島市 すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



市街地周辺に多くの住宅団地が開発されたが、子世代の転出などによって人口減少や高齢化が顕著となり、店舗等の減少やバス便の減少など、様々な地域課題が生じている。市総人口も減少傾向。高齢化率27.3%（R2時点）



取組のきっかけ

「住み慣れた地域で安心して老後をくらしたい」「ちょっとした手助けがあれば自立した生活ができるのに」1986年に組合員の声から始まった助け合い、支え合いの活動。

取組の目的

- 会員同士の心のふれあいを大切に、おたがいを尊重し、思いやりの態度を忘れないように心がける
- 活動会員は「資格がなくてもできることを」「できるときに」「すこしでもお役に立てれば」という気持ちで活動
- 自立を妨げることがないように気を付け、援助希望会員ができないこと、困っていることを手助けする

これまでの経緯

年・月	出来事
昭和61年	生活協同組合コープかごしまの15周年記念のひとつとして支えあい活動団体が発足し、助け合いの活動が始まる
平成28年	市の「生活支援支え手育成モデル事業」に申請
平成31年	活動会員4名がみんサポ応援講座（支えあい活動従事者研修会）を受講。
平成31年	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う
	活動会員のサポートとして、勉強会（月1回）、交流会（年2～3回）を実施
	また、定期的に活動会員登録説明会を開催し、活動会員を利用人数の倍の人数になることを
	目標として日々活動している

活動の概要

- ◆活動内容： 調理、掃除、ごみ出し、洗濯、買い物、庭の手入れ、外出付添、衣類整理
- ◆活動範囲： あさがお→市内北部地域、ひまわり→市内中部地域、かすみ草→市内南部地域
- ◆利用料： 700円/1時間（年会費：1,000円）
- ◆対象者： 会員
- ◆構成員： あさがお 30名、ひまわり 25名、かすみ草 38名（R4年度）
- ◆利用人数： あさがお 38名、ひまわり 30名、かすみ草 28名（R4年度）
- ◆活動に関わった人・団体
 - ・コープくらし助け合いの事務局と連携・協働（利用調整等事務の一部委託）
 - ・活動会員のサポートとして、活動事例や介護保険、傾聴、認知症等を学んだり、交流する場として年4回の学習交流会を開催

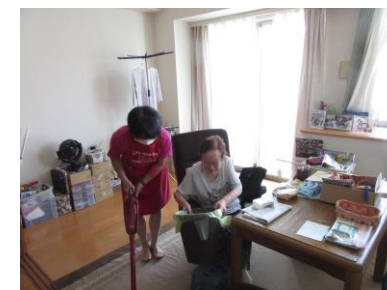
取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者の言葉が励みになる。
特に活動員は直接的に感謝を受け取れるので、活力になる
- 利用者の方に笑顔が増えるなど変化を感じることができる

〔課題〕

- 活動の担い手を増やすこと
- 活動時間外の活動依頼もあり、活動員が日程を合わせる場合があること

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

02 帯迫老人クラブ

鹿児島市 すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



吉野は人口増加傾向で、年少人口比率が高い。土地区画整理が進んでいる区域を中心に良好な生活環境が形成されつつある一方、道路などの生活基盤が未整備地域もある。人口約5.1万人。高齢化率29.5%



取組のきっかけ

10数年来休止していた老人クラブを平成28年に帯迫老人クラブとして復活。友愛訪問や奉仕活動を通じて、地域に貢献したり、関わりができることで、人生をより豊かなものにできると考え、友愛訪問活動の延長線上での生活支援活動を組織化した。

取組の目的

- できる活動・参加しやすい活動を通じた会員本人の生きがいづくり
- 超高齢社会における地域での老人クラブ活動の役割
- 元気なうちは支える側としてできる範囲で活動することで、地域への貢献はもちろん、自分の生きがいにもなる
- 「やってよかった活動」を合言葉にして活動

これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年12月	老人クラブの復活（帯迫老人クラブとして始動）
平成29年8月	定例会、臨時役員会で説明、話し合いを重ね、有志で支えあいグループを結成
平成29年9月	市のモデル事業に申請し、これまで友愛活動として安否確認、話し相手などを生活援助活動にあわせるボランティア活動を開始
平成31年4月	市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請
令和元年7月	地域内の全高齢者（75歳以上の方）に活動の広報を兼ねてアンケート（ニーズ調査）実施し民生委員・児童委員協議会とも話し合いを行った
	高齢者宅の屋内外の清掃、ゴミ出し、話し相手等の支援を中心に活動中

活動の概要

- ◆ **活動内容**： ゴミ出し、話し相手、清掃・掃除、庭の清掃・草取り、病院付添い、調理支援、電球交換等
 - ◆ **活動範囲**： 鹿児島市吉野町帯迫地域
 - ◆ **利用料**： 無料（原則として無償ですが、利用者の要望により有償利用も考慮されます。料金については応相談となります。）
 - ◆ **対象者**： 帯迫地域内の高齢者等（友愛訪問を通じて支援が必要と思われた方）
 - ◆ **構成員**： 16名
 - ◆ **利用者数**： 10名（令和4年度）
- 支えあい活動補助金をはじめ、各種助成事業等を活用して、老人クラブの財源を確保しつつ、地域に関わる活動へつなげている。

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 8年間活動することによって、地域に定着することができている

〔課題〕

- 他的高齢者クラブや様々な地縁団体にも活動が広まって欲しいこと。
- 支援を必要とする方が気兼ねなく、支援を受けられるよう、本人や家族の理解を得ることが重要。

- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

03 地域の助け愛隊（わがえへんのたすけあいたい）

鹿児島市 すこやか長寿部 長寿あんしん課

地域の概要



小山田町は市の北西部に位置し、自然豊かな地域。少子高齢化が進み人口約2,000人、高齢化率が50%を超え空き家や耕作放棄地が多くなっている。

今後、担い手の育成や「お互い様」の心で支え合う地域環境作りが課題となっている。

取組のきっかけ

10年後地域の我々の生活環境はどうなっているだろう。今以上に空き家が増え、地域の防災面や景観なども心配。独居高齢者も増えて、庭先の草刈りなどの手入れや、照明器具の取り換え・電池交換などちょっとした困りごとで不自由な思いをする方が多くなると考え、元氣な今から互いに支えあう関係の構築、共助の志を育もうと声を掛け、賛同者を募った。

取組の目的

- 地域の皆さんが「安心」して過ごせたらとの思いで活動
- 相談は原則として断らない
- 同じ町内会なので顔見知りで安心。「お互い様」の気持ちを大切にしている（近助）
- 自分たちの生活環境は自分たちで守る！

これまでの経緯

年・月	出来事
平成24年5月	東日本大震災を機に自分たちができる事を何かしないと被災地支援を目的に地域内の膨大な耕作放棄地を活用し、お米をつくり、販売益で支援しようと「どんこ村開拓団」の設立
	地域内の耕作放棄地の再生、農業体験イベントも並行して実施（田植え、案山子づくり、稲刈り、餅つき大会、小川での魚釣り）し、都市部の子供たちへの情操教育の一助
	多世代交流により、地域の高齢者の生きがいづくりにもつながった
	これらの取組から、地域の事を語る機会が増え、絆が深まり、地域づくり活動の原点となった
平成29年11月	地域の皆さんが安心して暮らせる地域を目指すため『地域(わがえへん)の助け愛隊』設立
平成30年4月	市のモデル事業『生活支援支え手育成モデル事業』に申請
平成31年4月	市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請
平成31年6月	鹿児島市支えあい活動従事者研修会(現みんサポ応援講座)を受講
	地域住民で協力しながら高齢者宅の庭の草払い等を中心に生活支援活動を実施

活動の概要

- ◆**活動内容**： 草刈り、剪定、家具家電の移動、家屋の簡単な修繕・補修・ゴミ出し等（営利目的・専門作業・危険作業は行わない。）
原則活動は複数人で実施⇒安全確認も含め生活空間の隣接部までが活動範囲
- ◆**活動範囲**： 小山田町上町内会
- ◆**利用料**： 作業員一人につきワンコイン（500円）
- ◆**対象者**： 地域内住民
- ◆**構成員**： メンバー50名
- ◆**利用人数**： 2017.12月～2022年度末まで延べ68戸に延べ375人で対応

息の長い活動にするため補助制度に頼らない組織に！！
いつかは支えられる側となる「お互い様」の繰り返し。
支えあう地域づくりを次世代へ継承していきたい。

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 活動をすることによって、利用者、活動者共に笑顔が増えたこと

〔課題〕

- 特になし



- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



吉野は人口増加傾向で、年少人口比率が高い。土地区画整理が進んでいる区域を中心に良好な生活環境が形成されつつある一方、道路などの生活基盤が未整備地域もある。人口約5.1万人。高齢化率29.5%

取組のきっかけ

大明丘・吉野町で野菜の販売をしている中で、坂の多い地域で買い物が大変そうな高齢者が多いと感じ、買い物に困っている高齢者に新鮮な野菜や食材を届けられないかと考えるようになった。また、野菜の販売を通じて出会う地域高齢者の他の困り事にも気づき、家族や友人と生活支援のボランティア団体を立ち上げた。

取組の目的

- 困ってる人が喜んでくれる仕事をしたい。
- 高齢者でも、障害があっても、暮らせる地域をつくりたい。
- 困っている方の駆け込み寺のような存在になればと思っている。

これまでの経緯

年・月	出来事
平成25年頃～	野菜の販売所、野菜の移動販売を開始
	野菜の販売を通じて地域の高齢者と関わる中で、様々な生活課題に気づく
令和3年8月	大明丘地区で高齢者に対する買物支援や居場所づくりをしたいとSCへ相談
令和3年12月	一緒に活動をする知人と『みんサポ応援講座(支えあい活動従事者研修会)』を受講
令和4年4月	支え合い活動団体発足、市の新規事業「支えあい活動補助金」を申請
令和4年5月	地域住民へ活動を知ってもらうため、広報チラシを作成し配布
令和4年6月	チラシを見た地域の高齢者から買い物の支援依頼があり、生活支援活動がスタート
令和4年6月～	支援を受けた高齢者から活動が口コミで広がり、ゴミ出し、草刈り等の支援をスタート

活動の概要

- ◆**活動内容**： ゴミ出し、買物代行、草刈り、庭の手入れ、外出付添、家具移動、電球交換など
- ◆**活動範囲**： 鹿児島市吉野地区、大明丘地区、他必要に応じて
- ◆**利用料**： 1,000円/1時間（応相談）
- ◆**対象者**： 地域内の高齢者等
- ◆**構成員**： 4名
- ◆**利用者**： 7名（令和4年度）

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 手を差し伸べられたらの気持ちではじめたが、簡単な作業でも感謝の気持ちを頂き、元気をもらえた

〔課題〕

- 広報活動の難しさ
(チラシ掲載が断られるケースもあり)

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



戦後まちづくりが始まり、昭和20年代にできた旧住宅街と昭和40年代に造成された新興住宅街からなる地域。平成8年に県庁移転。高齢化率は36.7%

取組のきっかけ

個々に奉仕活動をしていた人が集まり、趣味活動の講座等もしていた。1名がみんなサポ応援講座を受講したことがきっかけで、勉強会につながり、支え合い活動への意識が高まっていった。そこから校区コミュニティ協議会で具体化し組織化した。

取組の目的

- 住み慣れた地域において社会から孤立することなく安心して暮らすことのできる地域づくり
- 人々が集う、活気と魅力のある地域づくり
- お互いを思いやる地域づくり

これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年	1名がみんなサポ応援講座（支えあい活動従事者研修受講）
令和2年2月	受講者から仲間とともに詳しい話を聞きたいとSCに連絡がある。有志が集まる場にSCも参加し、活動に向けた話し合いがはじまる
令和2年8月	SCがコミュニティ協議会 社会教育部会主催「成人学級」にて「支えあい事業について」と題して1時間支えあい啓発を行う。参加者15名。
令和2年10月	有志にて支えあい活動を始めている。活動が軌道に乗れば補助申請を検討したい
令和3年2月	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う
令和3年2月	鴨池校区コミュニティ協議会の事務局を支えあい活動団体みんなサポかもいけの事務局とする。
	支えあい活動の広報として、鴨池校区コミュニティ協議会の発行するLLかもいけにチラシを掲載。LLかもいけのポスティング作業を活動員が見守り活動の一環として開始する。
令和3年4月	LLかもいけのチラシを見た方から、電球交換や草払いなどの依頼がくる。
令和3年	鴨池校区コミュニティ協議会の事務局から登録している希望者へ週3回午前中（月・水・金）に個別の電話連絡を行う、見守りコール開始。必要に応じて、支え合い活動団体へのマッチングを行う。

活動の概要

◆活動内容

見守りコール、校区情報誌ポスティング時の見守り（毎月全戸配布）
 高齢者110番：困りごと等の相談対応・生活支援（庭の手入れ、ゴミ出し等）

◆利用料金： 1時間500円（活動員1名につき）

◆対象者： 校区内の地域住民（特に高齢者）

◆活動会員： 35名（男性31名、女性4名）

調整役（6名）・高齢者110番（10名）、見守りコール（4名）・見守りポスティング（30名）

◆活動にかかわる人

○校区コミュニティ協議会：【事務作業】と【問い合わせ窓口】のサポート

・校区情報誌への掲載、サポートマップ作成等、ネットワークや広報活動

・校区コミュニティ協議会事務局：月・水・金曜日の9時～12時 高齢者110番、見守りコールの窓口対応と事務作業全般

○民生委員児童委員協議会、消防分団

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 活動を通して、コミュニケーションの輪が広がることで新たな仲間が増える
- 利用者と接することで、活動員に充実感が生まれる

〔課題〕

- 若手の担い手の加入

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



市の南部に位置する谷山地区は、団地においては同世代が一斉入居しており高齢化が進む一方、子育て世帯等の流入もあり、人口は横ばいで高齢化率は24.5%と低い。

取組のきっかけ

住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループ（高齢者への声掛け、安否確認等）として活動を開始。活動を通じて、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始めた



取組の目的

- 自分でできることは一緒に取り組んでもらうようにしている
- 活動の入り口は目の前の人を笑顔に変える会話

これまでの経緯

年・月	出来事
平成25年頃	住み慣れた地域でいつまでも暮らしていくことができるようにサポートしたいという思いから、町内会でともしびグループとして活動を開始。 ともしび 活動をしていく中で、ちょっとした困りごとを抱えている高齢者が多いことに気づき、見守り活動と一緒に家事等のお手伝いを始める。
	ボランティア団体として社会福祉協議会へ登録。
平成29年11月	市の「生活支援支え手育成モデル事業」へ登録。
平成31年4月	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う
令和5年8月	遠方からの相談も、困っていると思うと断ることができない。相談の方の地域で活動員になってくれそうな方を探すが、その地域で高齢化が進んでいる状態。

活動の概要

- ◆ **活動内容**：調理、掃除、ごみ出し、洗濯、買い物、庭の手入れ、外出付添、衣類整理、家具移動など
- ◆ **活動範囲**：谷山地域
- ◆ **利用料**：無料
- ◆ **対象者**：地域内住民
- ◆ **構成員**：男性1名、女性3名（計4名）
- ◆ **利用人数**：7名
- ◆ **活動に関わった人・団体**
本人・近隣住民・民生委員児童委員協議会
地域包括支援センター・ボランティアグループ「すまいる」



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者から頼りにされることで、活動にやりがいを感じる
- 活動が健康維持につながり、介護予防になっている。

〔課題〕

- 問い合わせが多く、活動の規模により、場合によっては対応が難しい場合もあること

- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



標高80mほどの高台にある造成から50年ほど経つ団地。高齢化率26.5%
団地内には大学病院や教育施設をはじめとした生活環境が整っている。

取組のきっかけ

高齢者が「安心して住み続けられる地域」を目指して、老人クラブ内で検討。有志で話し合いを重ね、身の回りのちょっとした困りごとを、できるときに、できる人が、できることをお手伝いすることにした。

取組の目的

- 高齢になっても自立心を持って自宅での生活を続けられるように、できないところを支援していきたい
- 地域を支えるのは地域の高齢者。「できない」を自分達の「できる」で支えたい
- できるときに、できる人が、できることで支えあうことが、住みやすい地域につながる
- 地域とのつながりを持つことの大切さを知ってもらいたい

これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年6月	老人クラブ有志2名でみんサポ応援講座受講。
令和元年12月	市単老会長交流研修会にて支えあい活動補助金紹介と帯迫老人クラブの事例発表を聞く
令和2年2月	支えあい活動補助金について生活支援コーディネーターの説明を聞き、メンバーで検討していく
令和2年3月	支えあい活動補助金の申請準備を行う
令和2年4月1日	老人クラブの有志にてボランティアグループを設立。支えあい活動補助金申請
令和2年5月16日	ボランティア団体として社会福祉協議体へ登録。
令和3年5月	代表交代（設立時から一緒に活動していたメンバーに代表引継ぎ）
	利用者が亡くなったり、転居された方もいた為、活動回数は少なくなっている。町内会だよりで活動を紹介している。活動員も高齢化してきており、後継者育成も必要となってきた

活動の概要

◆**活動内容**：掃除、ごみ出し、買い物、庭の手入れ、外出付添、家電・家具の移動など

◆**活動範囲**：鹿児島市桜ヶ丘5丁目地内

◆**利用料**：無料

◆**対象者**：地域内の高齢者世帯

◆**構成員**：5名（男性3名、女性2名）

◆**利用人数**：6名

◆**活動に関わった人・団体**：老人クラブ

民生委員

地域包括支援センター

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報(HP等に事業内容掲載)
- 担い手育成
(支えあい活動従事者研修会実施)

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 利用者から感謝されることが活動の励みになる。

〔課題〕

- 活動員の高齢化
- 支えあい活動の輪の広げ方

- 生活支援 見守り
- 買物支援 配達
- 移動支援 居場所づくり

- 協議体
- その他

地域の概要



薩摩半島の南端に位置し、市域は、東西12km、南北10kmで、その形状は、ほぼ五角形です。風光明媚な豊かな自然に恵まれ、日本一の「かつおのまち」として全国でも有数の港町です。高齢化率は、42.4%と高く、男性高齢者の社会参加が地域の課題となっています。

取組のきっかけ

少子高齢化や核家族化の進行に伴い、高齢者の一人世帯や夫婦世帯が増加している中で、高齢者などが住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにするため、地域での人との関わり合いや地域の資源などをマップにし、地域の皆さんで情報を共有し、地域について考える機会づくりとした。

取組の目的

- 地域を見える化し、地域の課題を共有
- 支援が必要な方への互助活動の推進

これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年2月	てげてげ広場第1号（金山公民館）活動開始。ささえ愛マップ1回目、参加者へ印しをつける。
平成30年9月	ささえ愛マップ（金山公民館）2回目 地域の資源、関わり合いのある人に印しを付ける。
令和元年10月	ささえ愛マップ（金山公民館）3回目 地域の良いところ、困っているところを考える。
令和3年12月	ささえ愛マップ（金山公民館）4回目 防災、避難について考える。
	他18公民館も順次開催している。年間5カ所程度。

活動の概要

住民主体の介護予防のための集いの場である「てげてげ広場」の参加者で、「ささえ愛マップ」をつくり地域の情報を共有し、課題を出し合い、その解決について考える。

- [頻度・利用人数]
- ・年に5カ所程度（現在19公民館）
 - ・てげてげ広場の参加者（10名～20名）

- [活動に係わった人・団体]
- 生活支援コーディネーター、市、公民館長、民生委員、在宅福祉アドバイザー



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[行政担当者としての役割]

- 第1層協議体で今後の事業方針を説明
- SCと定期的な情報共有

[SCとしての役割]

- ささえ愛マップづくりでのファシリテーターとしての役割

現時点での到達点（効果・課題など）

[効果]

地域のイメージを「見える化」し、さらに、「地域の良いところや困っているところ」を話し合うことにより、参加者全員が地域の実情や資源等を共有して、互助を含めた生活支援の課題や対応等について考える場となっている。

[課題]

てげてげ広場の参加者も男性が少ない。男性の社会参加が課題であり、個別の声を聞いてほしい。

- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

09 「大川内地区ドライブサロン買物バス」で買物支援

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



出水市の北東の山間部に集落が点在する大川内地区は、人口635人、高齢化率57.95%（R5.8.1現在）で、車がないと生活も困難である。地区内には買物する場がなく、友人との行き来も減少して住民の孤立が危惧されていた。



取組のきっかけ

地区コミュニティ協議会のアンケート調査で、買物の場、憩いの場がほしいという要望が多かった。生活支援体制整備事業を取り組むに当たり、社会福祉法人から車の提供をいただける地域資源があると判明し、この地区で買物バス運行を実施できるように、地区コミュニティ協議会を中心に第2層協議体が発足し、事業を取り組むことになった。

取組の目的

- 交通弱者への買物の支援
- 高齢者の一人世帯、高齢夫婦世帯の見守り活動
- 見守りをかねてのコミュニティづくり



大川内地区コミュニティ協議会ホームページ

これまでの経緯

年・月	出来事
平成29年12月	大川内地区で拠点・買物に関するアンケートを実施。買物の場、憩いの場の切望が判明。
平成30年6月	社会福祉法人から車の提供してもらい、買物バスとして生活支援体制整備事業ができないか構想。
平成30年8月	大川内地区コミュニティ協議会で事業を進めていくことを決定し、SCが地区内の65歳以上の一人暮らし及び高齢夫婦のみの世帯を対象に聞き取り調査を開始。
平成30年9月	大川内地区コミュニティ協議会健康づくり部会にて買物バス運行地域や方法など検討する。
平成30年11月	大川内・東出水地区高齢者生活支援体制整備推進協議会を発足。
平成30年11月	車両を提供する2社会福祉法人、社協、コミュニティ協議会、行政、SCで、薩摩川内市入来地区での買物支援事業を視察研修実施。
平成30年11月	出水市地域公共交通会議にて買物バス運行について周知、注意事項等を教授。
平成30年12月	関係機関参加で実施内容を検討し、ドライブサロンの要綱、送迎マニュアル、手引きをまとめる。
平成31年1月	買物バスドライブサロン試行運転、実施の修正を行う。
平成31年4月	大川内地区買物バス、ドライブサロン事業を本格運行。

活動の概要

出水市、社会福祉法人、地区コミュニティ協議会、社会福祉協議会が協働し、高齢者サロン活動の一環として買物支援を実施している。

地区コミュニティ協議会：事業主体として登録者の利用状況を管理、運営。
 社会福祉法人：車両と運転手、スタッフを提供。
 社協：高齢者サロンとして活動を支援、SCが同乗し、運営支援。

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 2社から車両提供があり、各月1回ずつ。（第2、第3木曜）登録地域によって、コースがあり、降車は自宅前。ドライブ中の交流と目的地での買物支援を実施
- 利用者数は、平均7人程度。
- 利用料金無料。

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、市町村、社会福祉協議会、大川内地区コミュニティ協議会、社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会、自治会長、民生委員、在宅介護支援センター

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 2層協議体で今後の事業方針を説明
- 関係団体の連携
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 地域住民の聞き取り調査
- 社会福祉法人興生会、社会福祉法人鶴寿会との連携
- 買物支援についての周知と協力者の募集



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

月に一度の買物バスを楽しみにしている利用者が多い。買物の利用以上に、参加者とのバスでの会話が一番の目的ととらえ、買物バスが地域の交流の場となっている。

〔課題〕

利用登録者数の維持。現在は車両の定員としてちょうどいいが、施設入居の為地域を離れる方もおり、利用者数が減少している。新規の利用者の方への声かけが必要。

- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

10

「米ノ津東地区コミュニティ協議会スマイル体操教室」で介護予防

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



水俣市との県境に位置する米ノ津東地区は、人口6,645人、高齢化率36.12%（R5.8.1現在）で、平成26年に米ノ津東地区コミュニティ協議会を設立し、地域課題に向けて取り組む機運が高まっていた。



取組のきっかけ

- 地区コミュニティ協議会設立時の住民アンケート調査により、病気や健康に不安を抱えている方が多いことが判明。継続的に取り組む仕組み作りが必要であった。
- 独自の体操で効果を上げている自治会があり、その体操を広めるため、地区コミュニティ協議会で運営する体操教室を始めるに至った。

取組の目的

- 健康寿命を延ばすため介護予防体操の実施
- 自治会の垣根を越えて集まれる居場所作り
- ボランティアスタッフによる運営で総合事業通所型サービスBとして地域の通いの場づくり

これまでの経緯

年・月	出来事
平成26年	地区コミ協設立時の住民アンケート調査で、病気や健康に不安を抱えている方が多いことが判明、その解消に取り組む必要があった。
平成30年8月	独自の体操が効果のあった六月田下自治会の体操を他の自治会に広めるため出前講座をした。
令和元年7月	米ノ津東地区夏祭りに向けて週1回コミ協多目的室にて盆踊り練習会を実施。
令和元年8月	米ノ津東地区夏祭りの練習をきっかけに、米東地区の誰でも受け入れ可能な「スマイル体操教室」を開始。立ち上げと同時に、高齢者元気度アップポイント事業を申請。
令和元年9月	行政と第2層SCで佐賀県嬉野市へ総合事業通所B実施に向けて視察研修。
令和2年6月	体操教室会場をJA会議室に変更し、体操終了後、同敷地内のAコープで買い物の流れができた。
令和2年12月	参加人数が増えて、コミ協多目的室利用も復活させ、2箇所同時のオンライン体操教室とした。
令和3年7月	スマイル体操教室が出水市介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスBに認定、開始。
令和3年8月	誰でもいつでも体操ができるように体操動画DVDを作成。希望する自治会サロンには無償で配布。
令和3年12月	コロナ禍によりコミ協多目的室が使用できなくなり、JA会議室のみの2部制での運営に変更。

活動の概要

出水市米ノ津東地区コミュニティ協議会が地域発の独自の介護予防体操教室を実施し、出水市介護予防・日常生活支援総合事業通所型サービスB事業として取り組んでいる。

地区コミュニティ協議会：体操教室の運営
行政：総合事業として取り組むための整備、支援
社会福祉協議会：運営支援

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 週一回木曜、①9時、②10時半からの2部制で、体操、歌踊りなどを実施。
- 利用人数は各部30名、計60名程度
- 利用料金は100円

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、米ノ津東地区コミュニティ協議会、JA鹿児島いずみ米ノ津事業所、社会福祉協議会、出水市包括支援センター、市民ボランティア協力者



米ノ津東地区コミュニティ協議会ホームページ

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 第2層協議体で活動把握、今後の事業を後押し
- 総合事業通所型サービスBとしての連携
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 高齢者元気度アップポイント事業の事務手続支援
- 出前講座申込受付
- SNSでの活動の広報
- 総合事業通所型サービスBとしての運営支援（事務手続支援含む。）



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 体操直後に低脂肪乳とビスケットを摂取することで筋肉の維持向上を図る。
- 3ヶ月毎の骨格筋量測定を実施。結果を表にして各自に配布。自分の筋肉量が見える化することで継続的に取り組む励みになっている。

〔課題〕

自治会単位で体操が実施できるようにDVDの配布、出前講座等を行っているが、継続して実施する自治会が少ない。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

11 男性限定サロン「男ん衆で楽しも会」

出水市 保健福祉部 いきいき長寿課

地域の概要



野田町は、人口3,635人、高齢化率40.17%（R5.8.1現在）で、平成18年に出水市に合併以前はひとつの町として運営していたため、地域内で完結、まとまりある地域ではあるが、車両がないと不便な山間部もある。



取組のきっかけ

高齢者を対象にした活動が多数展開される中、グラウンドゴルフを楽しむ男女比は半々であるのに対し、その他の活動は、参加者の約9割が女性である。

また、高齢者訪問で、男性は女性に比べて他者とのコミュニケーションを苦手とするがゆえに、地域交流が希薄な方が多いと感じた。

そこで、男性に特化した事業を模索し、男性限定で少人数の活動を実施することとした。

取組の目的

- 閉じこもりではないが、日中一人で過ごしている男性に外出を促し、他者との交流を通して介護予防につなげていく
- サロンの活動が高齢者同士の交流の場になり、脳の活性化や運動不足の解消に繋がる。
- 定期的な活動により、生活や健康の変化に気づき、安否確認が出来る。

これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年12月	他者との交流が希薄な高齢男性の存在が気がかりで「何か出来ないかと模索している時、ボランティアグループ《さわやか会》から活動希望の相談。
令和5年1月	高齢男性を対象にした新規事業案を《さわやか会》代表と検討を重ねるが、会員の年齢層が高く、《さわやか会》による活動支援は困難と判断。
令和5年2月	新規事業「男性の通いの場」の実施要綱(案)を作成。2層協議体である野田地区高齢者生活支援推進協議会にて説明し、全員の同意を得る。
令和5年3月	高齢者訪問員の協力にて対象者をリストアップ。声掛け訪問で参加者を募る。活動場所・活動ボランティアを確保。
令和5年4月	登録者の緊急連絡先など情報、及び緊急時も含む活動時のマニュアル作成。4月28日 事業開始。大型車での送迎や健康チェックの対応に問題あり。
令和5年5月	軽車両でピストン送迎・コミュニティルームでの健康チェックなど問題点を修正し、5月12日、実施。

活動の概要

2層協議体が実施主体となり、社会福祉法人とボランティアが協働し、男性限定（要支援介護認定を受けていない65歳以上の男性）のドライブサロンとして外出支援、買物支援を実施している。

2層協議体：事業主体として、登録者の利用状況を管理、運営。
 社会福祉法人：車両提供、担当2層SCが運転手兼運営支援
 市民ボランティア：運営支援

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 月1回（第4金曜日 午前9時～13時）茶話会、体操、ドライブ、買物を実施する。
- 利用人数 7名
- 利用料金100円

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、野田地区高齢者生活支援推進協議会、社会福祉法人双葉会、市民ボランティア協力者、鹿児島相互信用金庫野田支店（集合場所の無償提供）、社会福祉協議会

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 第2層協議体で活動把握、今後の事業を後押し
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 活動時、車両の運転
- 毎月の活動内容の企画や連絡調整、有志への連絡、実施前日の声掛け等



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

参加者全員が自宅の外で迎えを待ち、活動中、皆が笑顔で語り合うなど、いつも一人で過ごし、友達と呼べる仲間もいなかった方々が月に1回の「男ん衆で楽しも会」の活動を楽しんでいる。

〔課題〕

- 閉じこもりがちな方に（外出して他者との交流）を促すことの難しさ。
- 今後、希望者が増えた場合、事業をどのように行っていくか。協力事業者を募れるか。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

12 「仮屋おたすけ会」による生活支援

指宿市 健康福祉部 長寿支援課

地域の概要



指宿市北西部に位置する仮屋地区（池田校区）は、高齢世帯が多く、高齢化率は56%を超えており、買物や移動などの生活課題がある。

取組のきっかけ

生活支援コーディネーターが地域資源開発の取組みとして、地域内の困りごとを地域内で解決する有償ボランティアの組織化について地区へ提案したところ、困っている高齢者を支える仕組みを創りたいとの希望があり、本市で初めて実施することとなった。

取組の目的

- 日常生活の中での困りごとの支援
- できる時にできることを支援し気軽に頼める関係づくり
- 見守りを兼ねたコミュニティづくり
- 高齢者が担い手として役割と生きがいを持ち健康長寿につなげる

これまでの経緯

年・月	出来事
令和3年10月	生活支援コーディネーターから地区へ取組みを提案。
令和3年12月	視察研修やワークショップ（ニーズと手伝えそうなことを出し合う）を実施。
令和4年1月	ワークショップの意見を踏まえた規約及びチラシ案を検討し作成。
令和4年2月	担い手の募集と勉強会を実施。公民館役員会へ規約案などについて説明。
令和4年3月	地区総会で提案し、住民の同意を得る。
令和4年4月	発足式
令和4年5月	利用申込み開始。老人クラブ連合会に発足及び活動内容等について紹介。
令和4年6月	近隣校区の見守りグループ構成員に発足及び活動内容等について紹介。
令和4年7月	のぼり旗作成。開始後のニーズ状況について地区と協議。
令和5年4月	気になる高齢者宅を訪問し、おたすけ会の説明とマッチングを行う。

活動の概要

仮屋地区では、高齢者などが日常生活において、ひとりでは対処できない困りごと（ごみ出し・買物・草むしりなど）を支援するために、地区住民による有償ボランティアを行う互助組織を構築し、生活支援を実施している。

〔組織〕

発足：令和4年4月
 組織構成：「仮屋おたすけ会」15人 会長・副会長・支援員・見守り委員
 （公民館長・民生委員・老人クラブなど）

〔利用人数・利用者負担〕

利用人数： 数人（R4年度）
 利用者負担： 支援員1人あたり 30分 200円
 以降、30分ごとに200円（計2時間以内）

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、市、社会福祉協議会、仮屋地区

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- 第1層協議体で事業説明

〔SCとしての役割〕

- 地区への困りごとに関する聞き取りや取組みの意向確認
- 有償ボランティア組織の活動支援
- 社協広報紙での活動周知



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

戸別訪問し、些細な困りごとを聴きながら、身近で気軽に使える支援であることを説明することで、住民に理解を深めつつある。信頼関係を築きながら今後の活用につながることが期待されている。

〔課題〕

仮屋地区の住民に「仮屋おたすけ会」への理解と気軽な活用を促すため、戸別訪問による働きかけを行っている。また、ケアマネジャーなどへ周知し、生活支援の一助として活用につながるよう継続して働きかけている。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

13 「生活お役立ち情報 食の宅配サービス」 作成と買物支援による活用

指宿市 健康福祉部 長寿支援課

地域の概要



指宿市は、観光資源を豊富に持つ。高齢化率が41%を超え、高齢化が進んでいる。
地域資源が乏しい地域があり、買物や移動などの生活課題がある。

取組のきっかけ

「食」に関する支援を必要とする在宅高齢者が増加したため、生活支援コーディネーターが食に関する宅配サービスなどを行っている身近な店舗から収集した情報をまとめ、支援が必要な高齢者とのマッチングに活用することとなった。

取組の目的

- 買物が困難な方への支援
- 安否確認・見守り支援
- 課題解決に必要な団体と連携する

これまでの経緯

年・月	出来事
平成30年	商工会議所や商工会を通じて加盟店の情報について調査を実施。
その後	「生活お役立ち情報 食の宅配サービス」作成 ※SCによる各店舗情報の集約。内容は随時更新している。

活動の概要

市内の店舗から、「食」に関するサービスについて収集した情報をまとめ、在宅生活を続ける高齢者の買物支援の一助として活用している。

〔掲載内容〕
店舗基本情報（連絡先、営業時間など）、取扱商品、配達圏域など

〔窓口設置・掲載場所〕
設置：指宿庁舎、山川支所、開聞支所、社会福祉協議会
掲載：社会福祉協議会ホームページ
※ケアマネジャーなどへも随時情報提供を行っている。

〔活動に関わった人・団体〕
生活支援コーディネーター、社会福祉協議会



指宿市社会福祉協議会HP

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|---|--|
| <p>〔行政担当者としての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SCやまちづくり担当部署と定期的な情報共有 ● 第1層協議体で事業説明 ● 居宅介護支援事業所への紹介・情報提供 ● 研修会などでの紹介 | <p>〔SCとしての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域にある店舗への情報聴き取り取材 ● お役立ち情報の情報更新 ● 社協広報紙・ホームページでの紹介 ● 研修会などでの紹介 |
|---|--|

現時点での到達点（効果・課題など）

- | | |
|--|---|
| <p>〔効果〕</p> <p>居宅介護支援事業所やご家族などに紹介することにより利用につながり、在宅での生活が維持されている。
民間事業者の一部では、離れた家族とLINEでつながり、訪問時の様子を写真で情報提供し喜ばれている。</p> | <p>〔課題〕</p> <p>地域の個人商店が継続するためにも、店舗情報を速やかに更新しながら、支援を必要とする高齢者とのマッチングにつながるよう整備している。</p> |
|--|---|

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



地域内人口149人（男性：73人、女性76人）、65歳以上人口72人（男性34人、女性38人）、高齢化率48.33%。

人口減、独居高齢者増により、見守りや生活支援を要する高齢者が増加している。

取組のきっかけ

自治会長が自治会活動時に、独居高齢者の増加、ゴミ出し等に困っている高齢者が多いことを把握したことにより、高齢者の見守りや生活支援に特化した活動を行う西俣地域高齢者支援協議会を設立した。

取組の目的

- 訪問見守りを通じた安否確認
- 訪問見守りの結果に基づく困りごと、課題の把握
- 課題解決に必要な団体との連携

これまでの経緯

年・月	出来事
令和3年4月	集落長が集落内高齢者宅を訪問し、一人暮らしの高齢者や、ゴミ出し等の生活支援に困っている高齢者が多いことを把握したことにより、西俣地域高齢者支援協議会設立のための説明会を開催。
令和3年6月	西俣地域高齢者支援協議会設立、活動開始。
	自治会役員が協議会役員を兼務することで、人口減少に伴う中での人材確保につなげることができている。

活動の概要

協議会役員（町内会の班長）が月2回高齢者宅を訪問し、元気になっているかどうか、日常生活で困っていることはないか声掛けを行う。
ゴミ出し支援、免許返納者の買物・通院支援の申し出等聞取り結果を会長に報告し、ヘルパーの利用ができたり、親族の協力が受けられない場合、協議会で支援している。

[頻度・利用人数・利用者負担]

- **ゴミ出し支援**
頻度：月2回
利用人数：平均8人
利用料：無料
- **買物支援**
頻度：月1～2回（依頼者の都合により回数に変動あり）
利用人数：平均3人
利用料：無料
- **通院支援**
頻度：月1回
利用人数：平均2人
利用料：無料

[活動に関わった人・団体]

生活支援コーディネーター、市、西俣自治会、民生委員

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[行政担当者としての役割]

- 地域の協議会、SCとの定期的な情報共有

[SCとしての役割]

- 地域の対象高齢者の戸別訪問等聞取り調査
- 移動販売車やオンデマンドタクシー等社会資源調査、その情報の協議会・地域内高齢者への周知

現時点での到達点（効果・課題など）

[効果]

利用者からの満足感を得られている。これまでは特定の誰かに依頼し、気まずい思いをしていたが、協議会が設立されたことで利用しやすい環境になっている。

[課題]

人口減少による、役員等の人材不足が課題となっている。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



薩摩川内市、JR川内駅から東方向の住宅地。地域内にはスーパーやコンビニ、高校などあり。450世帯の住宅地で薩摩川内市では最大規模。65歳以上が170名で高齢化率は18%程度



取組のきっかけ

他自治体の見守りについての研修に行き、自分たちにも必要な見守り活動があるのではないかと、自治会内で意見交換を行い、80歳以上の高齢者にアンケートをとり、支え合いマップを作成することで自治会内の見守りや、移送支援についてのニーズがわかった。

取組の目的

- 自治会内の見守り
- 有償ボランティア



これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年6月14日	さつま町（白男川地区）見守りについての視察研修
平成28年6月16日	自治会内で意見交換し ・支え合いマップを実施 ・アンケートを実施（80歳以上単身者39名）
平成28年 冬	アンケートと支え合いマップから見えてきたこと話し合い ・高齢者の困りごと ・見守りが必要な人 ・見守りを行える人 それぞれのニーズを把握し、マッチングをしていく
平成29年	支え合いをリスト化し、報告書の作成した 支え合い（無償・有償ボランティア）スタート 見守り活動を開始
毎年	マップの更新をし、その都度見守りについて協議

活動の概要

見守り活動 訪問活動や日常生活の自然な見守り活動

有償ボランティア サロン送迎往復 1人300円

買い物・病院の送迎 1回600円 1日前に予約

見守りのネットワーク化

- ・高齢者クラブ、サロンの会、女性の会 LINEグループを作成し情報共有
- ・自治会長、民生委員、アドバイザー、社協、他 防災のためのLINEグループを作成



サロン送迎3名 久しぶりの利用となりました



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 自治会ニーズの把握
- SCの活動のフォロー
- 自治会活動の見える化、見せる化

〔SCとしての役割〕

- アンケート調査や支え合いマップのフォロー
- 地域住民の方々の思いをかたちにできるようつなぎ
- 自治会としての取り組みを見える化、見せる化
- ネットワークを構築



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 自治会内の見守り強化
- 住民同士の声掛けが増え、交流が密に
- 自治会内のニーズを自分たちで解決していくという考え
- 協議体として機能

〔課題〕

- 災害避難時の要援護について
- ICTについて
- 見守り人員の高齢化について

- 生活支援 見守り 協議体
- 買い物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

16 誰もが活躍できる地域 (薩摩川内市亀山地区 小倉自治会)

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

地域の概要



薩摩川内市亀山地区。小倉自治会は、南九州自動車道より西側に位置し、人口184人、高齢化率56.1%。2人に1人が高齢者。



取組のきっかけ

包括支援センターより、買い物に困っている方（Aさん）がいるので、地域で解決できないかなといった相談がきっかけ。Aさんは、独り暮らしで、最近物忘れが出てきており、買い物に行くことが困難になっている。県外の娘さんも、心配している。本人はできることはできるだけ自分でしていきたいと考えている。亀山地区担当の生活支援コーディネーターが相談を受け、地域の方にも相談した。

取組の目的

- 買い物支援
- 集いの場としての拠点づくり
- 見守り支援
- 役割づくり



これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年	包括支援センターより、買い物に困っている方の相談あり
	有償ボランティアの支援を検討するため、自治会長、世話役さんに相談
	小倉自治会は高齢化率も高く、ボランティアでの支援は難しい、他にも買い物に困っている人がいるのではないかと、アンケート調査
	話し合い（自治会長、世話役、2層SC） 個別課題ではなく、地域課題としてとらえよう 移動販売車の活用、拠点づくりにしてはどうか
	役割の確認
	生協コープかごしまさんからの説明
	生協コープかごしまさんの移動販売車スタート

活動の概要

薩摩川内市小倉自治会と生協コープかごしま、社会福祉協議会（SC）が協働し、移動販売による買い物支援を実施している。

- 小倉自治会：買い物に困っている人への声かけ。
Aさん宅が拠点の移動販売について広報。
- 社協（SC）：生協コープかごしまと自治会とのマッチング
- 生協コープ：移動販売の日程調整。



- 〔頻度・利用人数・利用者負担〕
- ・ 週1回、Aさん宅の庭を拠点にしている。
 - ・ 近所の方10名前後、集まって声を掛け合っている
 - ・ 店舗と同じ値段で購入でき、事前に注文もできるため、重いものなどを頼んでいる方がいる

〔活動に関わった人・団体〕
Aさん、Aさんの娘、生活支援コーディネーター、小倉自治会、サロン担当者、生協コープかごしま

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|--|---|
| <p>〔行政担当者としての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● つながり発表会での活動の周知 ● SCと定期的な情報共有 | <p>〔SCとしての役割〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 包括との連携 ● 小倉自治会との連携 ● 生協コープかごしまとのマッチング ● 買い物に困っている方への調査 ● Aさん家族の思い調整 ● 集いの場、見守り活動などの効果の見せる化 |
|--|---|



現時点での到達点（効果・課題など）

- | | |
|--|---|
| <p>〔効果〕</p> <p>買い物・移動に困っていると一人の困りごとが、他にも困っている方がいるとのことで、自治会が課題解決できた
集いの場としての拠点となり、独居や認知症の方の見守り活動
Aさんが自宅に移動販売がくるため、移動販売車の誘導をし役割をもつことができた</p> | <p>〔課題〕</p> <p>自治会が、川を挟み分かれており、距離があるため、川の向こう側の方への支援が行き届いていない。</p> |
|--|---|

- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

17 地域の未来のため、私たちがはじめたこと（上甑 中野自治会）

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

地域の概要



薩摩川内市の西約30kmに位置する甑島。令和2年に上甑と下甑をつなぐ甑大橋が開通し、甑は一つになりました。
上甑島は、人口2000人で減少し続けており、高齢者率56%、島民同士で支え合う地域。



取組のきっかけ

薩摩川内市では「まるごとささえ愛事業」で、生活支援コーディネーターと支え合い推進員が「いつまでも自分たちの町で生きがいを持って安心して暮らせるまち」を目指して、地域の困りごとやあったらいいなといった思いを皆さんと一緒に考え取り組んでいる。
地域支え合い推進員が、サロン訪問をしたとき、「買い物に便利なバスがあったらいいな」といった声を聞き、買い物など移動の不便があることを知った。

取組の目的

- 買い物が困難な方への支援
- 新たな集いの場
- 担い手の役割づくり
- 高齢者クラブの活性化



これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年4月19日	支え合い推進員が上甑地区での地域取材時に「日常生活での困りごと」について調査。「バスでの買い物などの移動について困っている」という声が多く聞かれた
令和4年4月19日	支え合い推進員が、中野地区のふれあいサロンを訪問した際にも、買い物の移動についての困りごとをきく
令和4年6月1日	上甑高齢者クラブ会長会（参加者：各高齢者クラブ会長5名、社協3名） 内容：推進員が聞いた地域の困りごとを紹介（買い物支援、入退院時の島内送迎） 結果：中野長寿会の会長から、買い物支援に取り組みたい意向があった
令和4年6月13日	第1回ドライブサロン実行委員会 役割分担、費用、声掛けについて決定、お試し日7月1日・8日
令和4年7月1日 令和4年7月8日	お試しドライブサロン1回目、2回目（両日利用者6名）
令和4年7月11日	第2回ドライブサロン実行委員会 お試し時のアンケートをふまえてドライブサロンの実施が決定
令和4年7月23日	中野役員会（ドライブサロンの実施の説明）
令和4年8月6日	中野ドライブサロン開始

活動の概要

ドライブサロンのスタート
車は、社会福祉協議会の車両貸し出し事業を利用し、ドライバーは2人で交代制。第1・3土曜日9時から11時に自治会の広場に集合し、島唯一のスーパーまで連れていきます。
買い物を楽しまれ、帰りは荷物がいっぱい。
当初、利用料は無料でしたが、令和5年度から200円の利用料とし、運行をしている。令和4年度実績は延べ回数16回、延べ利用者120名、利用平均7.5名



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

- | | |
|---|--|
| <p>【行政担当者としての役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SCや支え合い推進員との定期的な情報共有 ● 薩摩川内市でつながり発表会にての発表。事例の見え化・見せる化 | <p>【SCとしての役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サロン訪問による聞き取り調査の実施 ● 困りごと把握した後、高齢者クラブと課題共有 ● 中野自治会と課題解決に向けて話し合いの場に寄り添う ● 事例発表にて活動の周知 |
|---|--|



現時点での到達点（効果・課題など）

- | | |
|--|--|
| <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 買い物困難者の買い物支援となった ● 皆と会って一緒に買い物に行く集いの場となった ● 外出の楽しみとなり、交流により笑顔が増え、生きがいになっている ● 着ていく服を考え、情報交換の場となり、刺激のある日常となり介護予防に。 | <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 買い物だけではなく移送支援についても検討している（銀行や病院など） ● 現在月2回土曜のみの運行だが、平日の運行についても検討 |
|--|--|

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

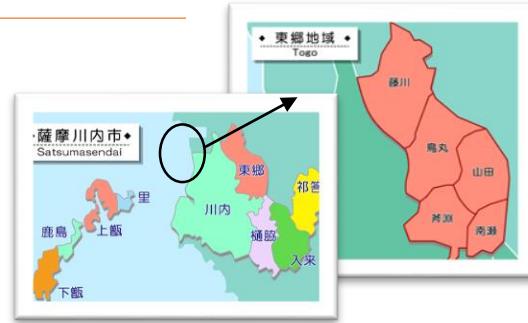
18 本俣自治会のささえ愛（住民主体の助け合い）

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

地域の概要



薩摩川内市東郷町の藤川地区。阿久根市との境にある、本俣自治会。世帯数は17世帯、全住民で27名。1世帯以外は全員高齢者、70歳以上の方が70%を占めています。



取組のきっかけ

30年以上続く本俣のサロン「本俣かじかの会」。サロンを担当している村尾さんが、「買い物が大変になってきた」と東郷担当の生活支援コーディネーターに相談したことがきっかけ。

取組の目的

- サロンの継続
- 自治会全体で支え合う
- サロンだけではないつながり
- 私たちはこれからもここで生きる
- 見守り活動
- 孤食防止
- 移動販売が集いの場



これまでの経緯

年・月	出来事
令和3年8月	ふれあい・いきいきサロン「本俣かじかの会」を生活支援コーディネーターが訪問
令和3年9月	東郷地域のサロン代表者が集まる会「サロン連絡会」で、「本俣かじかの会」代表村尾美代子さんから、「サロンの際に食事を提供しているが、買い物が大変になってきた、サロンが継続できない」と相談を受けた。
令和3年10月～12月	・生活支援コーディネーターが毎月サロンに参加し、参加者から話を伺い現状把握 ・生活支援コーディネーターから、サロン代表者の村尾さんが相談した内容について、本俣自治会長兼民生委員の久保力さん、健やか支援アドバイザーの久保理恵子さんへ相談（久保力さんと理恵子さんは夫婦）
令和4年1月～	サロン代表者村尾さんの悩みであった、買い物は、参加者でもある久保理恵子さんが担うようになり、サロン代表は、そのまま村尾さんが継続することとなった。 月1回のサロンは役割を分担し継続することになった

活動の概要



久保理恵子



→ ● 自治会副会長の久保ノキさんが自治会の配布物の配布が困難。運転ができる久保理恵子さんが配布を手伝い。



お付き合い歴30年以上
平均年齢♡85歳♡
最高年齢♡94歳♡

サロン以外でも、
強くつながり助け合う



- ↑ 役割を分けながら、サロンの継続
- 買い物→久保理恵子さん（運転可）
 - 調理→久保ノキさん（そのまま）
 - サロン代表→村尾さん（そのまま）
- 活動は、脳トレ、おしゃべりや食事。みんなで役割分担をしながら工夫して



← ● 年2回の清掃作業。本俣自治会長 久保力さんは、作業の1か月前に本俣自治会出身者に協力を求める手紙を送付。毎年多くの出身者が地元集まり、地元住民と出身者との交流の場となっている。



↑ ● 『結いの郷 ふれあい館』出身者が帰省した際の集いの場。故郷である本俣と出身者をつなぐ。
← ● 炭窯を作り、炭焼きを数年ぶりに開催！

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 2層SCと情報共有
- 本俣の活動について広報

〔SCとしての役割〕

- サロン代表者との連携
- 本俣自治会の方のつながりを発見、意識化、見える化、見せる化、共有
- サロンの調整



担当SC：米澤

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 見守り・見守られ
- 孤食防止
- 役割を持ち、生きがい活動となっている
- 介護予防
- 助け合い

〔課題〕

現時点で、60代世帯が本俣自治会を支えているが、5年10年後は人口減少や高齢化により現状を維持できない

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



陽成は、薩摩川内市の中部、麦ノ浦川の流域に位置している。山に囲まれ、自然豊かな地域。人口504名、高齢化率54.9%
 高齢化率が高く、コロナ禍で担い手不足が地域の課題として挙がっている

取組のきっかけ

自治会で住民支え合いマップを実施した時に、コロナ禍で地域内で集まる機会が減ったと話題に挙がったことがきっかけ

取組の目的

- 地域のシンボルであるイチョウを生かした、集いの場としての拠点づくり
- 地域内での集いの場の立ち上げ
- 住民支え合いマップの実施（見守りに関する協議の場）

これまでの経緯

年・月	出来事
令和4年12月7日	住民支え合いマップを実施 ・コロナ禍で地域で集まる機会が減った と意見あり
	生活支援コーディネーターが、他地区の集いの場について情報提供
	自分たちでも取り組んでみよう



活動の概要

○集いの場1○
 移動販売で、人が集まることを利用し、移動販売車が来る前にラジオ体操を始める
 週に1回
 9人参加
 料金は無料

○集いの場2○
 自治会で、毎年「イチョウの杜」でライトアップのイベントを開催。
 見学者がゆっくり過ごせるようにと、手作り、手塗りをしたテーブルと椅子の設置
 イチョウの横にコスモスを植えたり、草取りしたり手入れをしている



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔SCとしての役割〕

- 住民支え合いマップで集いの場や地域活動の把握
- 他地域の取り組みの情報提供
- 活動開始後のフォロー
- 活動を他地区に広報、情報提供
- 他地区で同じ取り組みが始まったことを、上大迫自治会へ情報提供



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 地域の新たな集いの場
- 介護予防（ラジオ体操）
- 高齢者同士の交流
- 参加者が増え、交流が増えた
- 隣の自治会が活動を知り、同じ活動に広がった
- 他地区でも活動が始まり、改めて自治会のやる気となった

〔課題〕

- 高齢化率が高く、今後の継続した活動

- 生活支援 貝守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

20 地域のヒーロー (祁答院町藺牟田地区 湯之元自治会)

薩摩川内市 高齢・介護福祉課

地域の概要



薩摩川内市祁答院町の藺牟田地区。藺牟田池を囲む山間。湯之元自治会は、人口は906人、世帯数は476世帯。高齢化率は50.2%、藺牟田地区の中でも一番高い。



取組のきっかけ

30年前に、青年、壮年部の男性の集まりがなかったので、まずは飲み会を月1回しよう！旅行に年1回行こう！と火曜日に集まりだしたのがきっかけ。その後、「火曜倶楽部」という名前を付けて活動を開始。集まりの中で、地域の困りごとが聞かれるようになり、ボランティア活動を始めました。

取組の目的

- 集いの場
- ボランティア活動
- 地域活性化
- 世代間交流



これまでの経緯

年・月	出来事
平成5年ごろ	青年部と壮年部（20代から50代）の集まりがなかったので、飲み会を月1回しよう！ 年に1回は旅行に行こう！
	火曜日に集まることより、「火曜倶楽部」と名付けて、集まるようになった。 おそろいのジャケットを作った。
	毎月第3日曜日、足湯公園の清掃をするようになった。 年末の年越しイベントのために、そばをつくることになった。
	土壌作りから行い、そばの種をまき、種から育てた。 高齢者宅の草払いなどのボランティア活動を始めた。
	55歳が定年だったが、70歳まで引き上げた。（高齢化） そばづくりのコストを考え、一から育てることをやめた。
令和3年12月末	そばづくりを再開。帰省している人にも、そばをふるまう。

活動の概要

毎月第3日曜日 足湯公園の清掃
毎月1回の定例会＆飲み会
年1回の旅行
年末に年越しそばのふるまい
ボランティア活動（高齢者宅の草払い、ゴミを集める）
敬老会での余興



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- つながり発表会での見える化、見せる化、共有していく
- SCと定期的な情報共有

〔SCとしての役割〕

- 既存のボランティア活動を発見し、意識化、見える化。見せる化し共有する
- 「火曜倶楽部」との活動を広報
- 「火曜倶楽部」の活動している方々の思いをつなげていく
- 住民との関係を築き

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 男性の集いの場となり定期的に集まって活動している
- 時代に合わせて変化する柔軟性がある
- 定例会と飲み会があり楽しみができています
- 地域の声を拾い、活動につなげることができている

〔課題〕

- 活動メンバーの高齢化
- メンバーが減り続けている
- 活動の計画

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

21 「困りごと支え隊」(※1) 「かせとも」(※2) による生活支援

いちき串木野市社会福祉協議会

地域概要



鹿児島県薩摩半島の北西部に位置し、平成17年10月に市来町、串木野市が合併し誕生。

人口26,455人、高齢化率39%。(令和4年12月現在)

16の地区(コミュニティ組織)、143の公民館が地域福祉を推進する基礎単位。

取組のきっかけ

平成30年に市と社協の話し合いの中で、公民館等の福祉部等を基盤として地域住民が被支援者を支援する体制づくりを進めていく方針で一致。

取組の目的

- 生活支援が必要な方(被支援者)への支援。
- 生活支援を行う方(支援者)にとっての介護予防。

これまでの経緯

年・月	出来事
平成30年6月	高齢者地域支え合いポイント事業を活用した「困りごと支え隊」の活動方法について市、社協間で協議を開始。
平成30年12月	羽島地区、野平地区を「困りごと支え隊」のモデル地区とすることを市、社協間で決定。
令和元年11月	羽島地区で困りごと支え隊「コスモス」「めだかの学校」が結成。
令和2年1月	羽島地区で困りごと支え隊「たんぼぼ」が結成。
令和2年2月	野平地区で困りごと支え隊「野平困りごと支え隊」が結成。
令和3年5月	介護人材確保ポイント事業による「かせとも」を令和4年度から実施することを市が決定。
令和3年6月	介護人材確保ポイント事業を活用した「かせとも」の活動方法について市、社協間で協議を開始。
令和4年4月	羽島地区、野平地区で「かせとも」の活動を開始。
令和4年6月	地区社協活動の取組に生活支援を位置づけ、地区の会長等へ説明を実施。
令和5年3月	地区社協活動として16地区内全てで「困っている人」を把握する体制となった。

活動の概要

- 活動の柱
 1. 生活支援CD、市担当者による地区等やこぼん体操への事業説明を行うことで普及啓発を実施。
 2. 地区社協活動(※3)に生活支援を位置づけ、地域福祉の基盤整備を推進。
 3. 高齢者地域支え合いグループポイント事業、介護人材確保ポイント事業を活用。
- 生活支援の項目
 - ①屋内の掃除 ②屋外の掃除 ③ゴミ出し ④洗濯 ⑤布団干し・取り込み ⑥衣服の整理・補修
 - ⑦調理 ⑧買い物 ⑨戸締り ⑩環境整備 ⑪外出 ⑫話し相手

「困りごと支え隊」(※1)

- ・「高齢者地域支え合いグループポイント事業」を活用し以下にポイント付与。
- ・グループで同一日に3人以上(半数以上が65歳)で1時間以上の支援。
1ポイント=1,000円、年間最大60,000円。
- ・定期的に困っている方について福祉部等で情報共有や支援内容の会議。

「かせとも」(※2)

- ・「介護人材確保ポイント事業」。
- ・個人で1回30分以上の支援。
30分=1ポイント=100円(1日上限2ポイント)、年間最大5,000円の本市で使える商品券。

「地区社協活動」(※3)

- 16地区を地区社会福祉協議会として設置し、地区を窓口としながら生活支援の体制づくりを推進するため、以下の取組を行う。
- ①生活支援の必要性があると思われる方(高齢者等)の実態把握(名簿作成)。
 - ②生活支援の内容や方法、頻度等について話し合う(会議録・年4回以上)。
 - ③必要性があり、かつ可能であれば地域で生活支援を実施。
- ※①②③は主に公民館ごとに実施。
※赤い羽根共同募金で助成(地区と公民館へ助成)。

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業主旨方針を明確にする。
- SCと定期的な情報共有を行う。

〔SCとしての役割〕

- 社協が従来から持ち合わせている地域との関係を活かして事業主旨を伝える(地域、関係各所への啓発)。
- 関係各所との協議の際には進行やまとめ役を行う。

現時点での到達点(効果・課題など)

〔実績・令和4年度〕

- 「困りごと支え隊」(羽島地区3団体、野平地区1団体) ⇒4団体、支援人数:232人、支援日数:122日。
- 「かせとも」 ⇒33人、支援人数:192人、支援日数:1042日。
- 市内全ての地区(16地区)で「困りごと支え隊」が結成される。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要



西町はさつま町では市街地ではあるが、地域住民の高齢化率は35.5パーセントとなり、日常生活上の支援に、課題を有する高齢者世帯も増えている状況である。



取組のきっかけ

民生委員の研修で三重県四日市市の社会福祉法人青山里会へ行き、地域の高齢者等とボランティアを繋ぐ活動「ちょっと手を貸して運動」を視察し、地域支え合い推進員の活動ヒントを得て、とりあえず公民会で話し合ってみることになった。

取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 地域での支え合い活動の推進

これまでの経緯

年・月	出来事
平成28年10月	民生委員の研修で三重県四日市市の社会福祉法人青山里会で実施されていた地域の高齢者等とボランティアを繋ぐ活動「ちょっと手を貸して運動」を視察した。
平成28年11月	第1回 役員会を公民会長宅で開催した。 第2回 メンバーに班長を加えて話し合った。
平成29年3月	第3回 ふれあいサロンで役場の生活支援コーディネーターを招いて説明を受けた。 第4回 公民会の総会で住民80名ほどに説明をし、承認を得た。
平成29年4月	地域支え合い推進員の年4回の会議で総合事業や支え合い推進員について研修を受けた。
平成30年4月	さつま町の在宅福祉アドバイザーが地域支え合い推進員として役職一元化が決定した。生活支援型の訪問型サービスはまだ行わないことになった。
平成30年6月	西町福祉会議で町内の住民主体の生活支援活動を行っている事例や西町の要援護者、活動に係る保険の資料等をもとに話し合いを行い、団体名、料金体制、活動時間・内容を決定した。
平成30年8月	「西町ささえあい隊」が設立し、総合事業は行わないことにした。

活動の概要

〔支援内容〕

買い物、病院付き添い、公共機関付き添い、住居の修理等

〔頻度・利用人数・利用者負担〕

- 月に3件程度
- 利用料金は会員登録制で協力会員・利用会員とも年間1,000円

〔活動に関わった人・団体〕

元民生員の発起人、自治会、役場、社会福祉協議会

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 生活支援団体活動事業補助金の創設・既存団体への説明・交付申請受付・補助金交付 等

〔SCとしての役割〕

- 規約の例示
- ボランティア活動保険の手続支援
- 活動上の相談・支援
- 活動の普及・啓発

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 買い物に支援が必要な方の支援につながっている。
- 通院の付き添いにも対応できている。

〔課題〕

- 今から来てほしいというニーズへの対応が難しい。
- 一度に何ヶ所も立ち寄られる方の対応に時間がかかる。
- 公民会での活動なので、公民会未加入者への対応ができない。

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

23 「中種子町社会福祉協議会」による買物支援

中種子町 地域福祉課

地域の概要



以前は各地区集落に商店があり、日常の買い物に支障がなかったが、人口減少、高齢化により各地区集落の商店が閉店し、公共交通機関を利用したの買い物移動を余儀なくされた。
また、公共交通機関はバスのみ。高齢化率は40%を超え、免許返納者も多く、移動が生活課題となっている。



取組のきっかけ

重層的支援体制整備事業への移行準備事業において65歳以上の困りごとアンケート調査を実施。また、行政による買い物状況等に関するアンケート調査の結果を踏まえ、買い物に困っている高齢者が多いことが判明し、実施することとなった。

取組の目的

- 買い物困難な方への支援
- 高齢者の外出のきっかけ（ひきこもり予防）
- 見守り安否確認
- 課題解決に必要な団体へのつなぎ

これまでの経緯

年・月	出来事
令和2年2月～令和2年3月	行政の買い物状況等に関するアンケート調査を実施
令和2年9月～令和3年1月	いきいき交流事業、独居高齢者への困りごとアンケート調査を実施
	上記2つのアンケート調査の結果、買い物に困っている方が多いことが判明
令和3年2月	町内の社会福祉法人へ買い物支援を打診するが実現せず
令和3年2月	→行政・地域包括支援センター・社協にて買い物支援の協議を実施
令和3年4月	コミュニティバスを運用している行政課へ説明。 →アンケート調査で困っていると回答した方への案内、申請受付。 →買い物支援事業施行運転開始。 →地元スーパーへの説明、ポスター掲示依頼
令和3年4月	民生委員定例会にて説明。また、買い物移動に困っている方への案内依頼を実施

活動の概要

社会福祉協議会が買い物支援を実施

- 〔頻度・利用者数〕
- ・ 町内7校区を4つに分け、それぞれ月2回実施
 - ・ 平均4名程度が利用している

- 〔買い物支援の流れ〕
- 品揃えの良い午前中に買い物を実施
 - ・ 事前申請（自宅を訪問し申請の手続き）
 - ・ 実施日の前日に利用内容を確認
 - ・ 実施日の当日は自宅まで迎えに行き、本人が希望する町内の商業施設まで送迎を行い買い物の支援する。本人から希望があれば袋詰め等も対応する。

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- SCが発行しているSC新聞で社会福祉協議会が行っている買い物支援事業を周知
- 買い物支援が必要な高齢者の把握
- 買い物支援が必要な高齢者へのつなぎ（利用促進）。

〔SCとしての役割〕

- 集いの場での買い物支援の案内
- 買物が困難な人の拾い上げ
- 支援中の困り事聞き取りも兼ねて、買い物支援対応者（パート職員）不在時には支援対応する
- 校区内で、様々な支援が必要な方を把握するための体制づくりの整備

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

普段交流の少ない住民同士が買い物をきっかけに定期的に顔を合わせ、コミュニケーションが生まれている。買い物支援だけでなく、コミュニティの構築、ゆるやかな見守りの一翼を担っている。また、生活課題等の相談があった場合は関係機関へのつなぎを行っている。

〔課題〕

買い物支援事業のチラシを全戸配布したが、困っている方の情報収集困難が課題であり、民生委員による戸別訪問を通じた働きかけや生活支援コーディネーターを通して、集落内集いの場での案内や買い物困難者の拾い上げをお願いしている。

無料 申種子町のくらしの安心をサポート

お買い物支援

こんなことでお困りではありませんか？

- 荷物が重くて大変
- 買い物に行く移動手段がない
- ご自分の目で見て選びたい

ご質問・ご相談などお気軽にお電話ください

中種子町社会福祉協議会
☎27-1845

ご利用までの流れ

ご相談・受付

ご依頼申込

お買い物

①ご自宅へお迎えに行き近所の方々と乗り合い商店街駐車場へお送りします

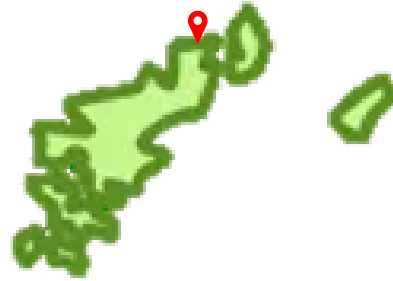
②商店でお買い物

③お買い物後、各ご自宅へお送りします

- 生活支援 見守り 協議体
- 買物支援 配達 その他
- 移動支援 居場所づくり

地域の概要

人口：161人
 高齢化率：42.6%
 生活の中で住民同士の繋がりによる助け合いがみられたり、集落行事がさかんで、子どもから高齢者まで一緒に参加されている。



取組のきっかけ

・以前から、近隣の地域では見守り活動に取り組まれていたことをきっかけに、住民同士で自分たちの集落でできることを話し合い、見守り・生活支援を行う活動グループが発足し、現在はメンバー27名で活動を行っている。

取組の目的

- 高齢者の見守りや生活支援
- 高齢者の外出のきっかけや交流の場づくり
- 次世代と交流の場づくり

これまでの経緯

年・月	出来事
令和2年12月	活動に向けての話し合い
令和3年1月	住民主体で見守り・支え合い活動を行うグループが発足 毎月1回定例会を開催し、活動報告や困りごとの共有しながら活動している。
令和3年7月	地域の子どもたちへチキン南蛮を手作りし60食配布
令和3年12月	子どもたちと一緒にマコモの葉でクリスマスツリーを手作りし、高齢者宅へ配布
令和4年6月	手作り赤飯を高齢者へ配布
令和5年4月	活動協力者が新たに4名加入 ゆらい場の設置
令和5年8月	子どもたちと旧暦七夕飾りを作成し、高齢者宅へ配布

活動の概要

活動内容：生活支援（ゴミ出しや自宅の掃除）、ゆらい場「ゆらい処はまゆう」の開催、夜間に火の用心ウォーキングによる見守り、交流イベントの実施



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

[行政担当者としての役割]

- 地域包括支援センター発行の「どうくさだよ」にて活動の周知
- 世話焼きさん（地域福祉推進員）との情報共有

[SCとしての役割]

- 活動状況の把握・情報発信
- 地域が自発的に活動していることの把握・連携と協力体制づくり

現時点での到達点（効果・課題など）

[効果]

高齢者とゆらい処でお茶会・交流をすることで外出のきっかけづくりができ、社会参加の場となっている。
 子どもの下校に合わせて、声掛け、見守りができている。交流イベントの開催で地域に活気が出た。

[課題]

以前からのおつきあいで移動支援等ができていたが、新規での依頼があった場合の課題が予想される。